

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400161		
法人名	社会福祉法人神門福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護グループホームかんの里(なごみユニット)		
所在地	島根県出雲市神門町13番地5		
自己評価作成日	令和6年1月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/32/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3290400161-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	令和6年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念を基に、利用者の方の生活環境を把握し、個々の能力と意思を尊重し家庭的な雰囲気の中で役割を持ち張り合いのある生活の提供に努めている。その時期にそった行事を生活の中に取り入れたり、畑で採れた物を食事に使用するなど行っている。メリハリのある生活を送って頂けるよう身体を動かしたり、脳トレをして脳の機能に刺激を与える働きかけも取り入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

基本理念に基づき、毎月の目標を作成され、利用者の笑顔が日々見られるよう職員はケアに努めておられます。環境的には田畑が広がり、敷地内にも畑があり、収穫された野菜を使った献立も提供されています。利用者みなさんと切干大根、干し柿作りやおやつも一緒に作られ、行事食や特別食も提供され、食事が楽しめるよう工夫をされています。
コロナが5類移行になり地域の保育園児との交流も再開され、楽しい時間を過ごされました。また、看護師も勤務されているので、日々の健康管理や協力医と連携され、利用者の安全・安心と家族の安心にもつながっています。
タブレットを使った情報共有も進められています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	4つの理念を事務所に貼り、目の届く所に置いている。毎月の目標をあげている。それに基づき住み慣れた地域、生活により近い環境の中で、ゆったりと日々過ごして頂けるよう行動している。	理念・基本方針に基づいたケアが行えるよう毎月の目標を作られており、職員の思いや利用者との約束が実践できるよう努めておられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員になるよう努めているが、コロナ禍だったこともあり以前ほどの交流はまだ難しいが、その場合は地域の行事に作品を展示という形で参加している。保育園との交流は3年ぶりに行った。	コロナが5類になり久しぶりの保育園児とのクリスマス会での交流が行なわれ、利用者の楽しそうな笑顔が多く見られました。地域のコミュニティセンターとの交流の機会も継続されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	B型サロンを当文化祭で行う事が今年も出来なかった。地域の方へ向けての実践は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行われ、定期的に報告、意見交換しサービス向上に努めている。	コロナ5類移行に伴い、現在は対面開催され、ホームの現状報告が行われています。委員からの意見や情報を頂き、今後のホーム運営に活かされています。	運営推進会議の際に実施アのケア現場を見て頂き(例として昼食試食会、地域との災害時の連携体制)ご意見を伺うような機会を持たれる事も良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の方には定期的に訪問を受けている。介護相談員の方には、その日の気づき等を報告して頂いている。	管理者が主に市との連携を図っておられます。来年度の報酬改定についての情報を得ておられます。また、介護相談員の方が来られ、利用者からの意見の聞き取り、気づきを報告頂いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしていないか、3ヶ月に1度委員会を行い検討し改善などを行っている。利用者の安全確保の為、家族に説明し理解を得てセンサーマットの使用されている方もいる。	身体拘束廃止委員会が3ヶ月に1回開かれ、検討され改善されています。身体拘束廃止については全職員で理解されています。利用者の安全確保のため家族に理解を得て、センサー等の利用をされています。日中玄関の施錠はされていません。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関しても3ヶ月に1度委員会を行っている。毎月のユニット会議でも検討事例があれば話し合い、職員間でケアの方法について検討している。	虐待防止委員会が3ヶ月に1回開かれています。毎月のユニット会議においても検討事例をあげ、話し合いを行い、適切なケアが行えるよう心掛けておられます。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については学ぶ機会も、外部機関開催研修も少なく中々活用が難しい。現在は利用者の中にこの関連法や制度を利用される方もいない為活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申込時に重要事項の説明や施設の見学を行っている。随時質問を受けて丁寧に対応している。入居時にも再度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン説明時に話すようにしていたが、難しい時には面会時に日頃の様子を伝え、家族の意見を直接伺ったりし、全職員で情報を共有し、日々のケアに反映出来るようにしている。	利用者には日々の会話の中から意見・要望を聞かれています。家族にはケアプラン変更時には意見・要望を伺い、面会に来られた機会にも伺われています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議に参加してもらおうとしているが日程が合わず、時々しか参加できていない。	管理者はユニット会議にはできるだけ参加され、職員の意見を聞くようにされていますが、参加できない場合には、ユニットリーダーから職場改善等についての意見を聞き検討されています。	管理者が日々多忙なため職員からの声が届きにくいと感じられている方もあるようです。ユニットリーダーとの連携を密にされ職員からの意見がよりよく伝わる工夫に期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法令の改正に合わせて就業規則や給与規定、その他規則の改定作成をしている。	人材確保対策として次年度より外国人技能実習生を受入れられます。人員不足な点は時間外手当を出されています。管理者は必要に応じて個別に職員と話す時間を持たれています。	外国からの技能実習生のOJTの仕組みも現場職員は不安に感じられている面もあるようです。これからも職員のやりがいにつながるような職場環境の整備に期待します。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンライン研修を今年も取り入れていた。(施設内研修は参加する事が難しい職員が多い為)外部の研修には参加していた。	コロナ禍の影響もあり、今年度もオンラインでの研修が中心に行われていました。また、資格取得に向けての研修に参加できるようシフト変更が行われています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍ということもあったので、交流する機会があっても参加しなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初に要望などには耳を傾けている。管理者も事前訪問等行い、意向を確認し本人の話や家族との会話に気をつけて対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時困っていること等聞いている。入居開始前よりどのような問題を抱えられているのかを把握し、要望などあれば言いやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記と同じく、その方に必要なサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設内でこちらからお願いするばかりでなく、教えてもらったり、一緒にしたりと、その方に合った援助を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来荘の際は個人の居室でゆっくりお話をしたり、電話をしたい時には話される機会を大事にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で難しかったが、お墓参りに行ったり、友人を連れて来てもらったりと、全く途切れる事が無いようにした。以前からのかかりつけ医への受診を行ったりとつながりを大切にしている。	家族との面会は居室で行えるようになっていす。本人や家族からの希望を聞き、可能な場合はお墓参りや法事にも出かけられていました。つながりが継続できるよう支援されています。	馴染みの関係継続があった場合には、そのことについて話を頂き、回想法につなげる工夫に期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介に入る必要があったら入ったり、利用者間でもなじみの関係が出来たりしている。個々を尊重しつつ、お互いが関わり支えて行けるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば相談や支援する事はあると思う。GHで看取りをした方は3回忌まで行っていた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や利用者間の会話から把握するように努めている。困難な場合も思いをくみ取るよう努めている。希望や意向は記録に残し職員間で共有している。	毎日の何げない会話の中から本人の思いや意向が聞き取れるように心掛けておられます。希望や意向は記録し、職員間で情報共有されています。	本人のやりたいこと目標につながる意向把握に期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の様子や、ご家族本人との会話から聞き出して、なじみの場所に行ったり出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアカンでも話し合い、休憩時間や過ごし方を検討している。日々の生活の中で現状把握に努め、職員間で情報を共有し、個々の意向に近づけるよう行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度のケアカンファレンスで見直しを行い、課題があれば検討している。時にはリハビリや栄養士の意見も聞いている。	利用者・家族等の意向等も取り入れつつ3ヶ月に1度のケアプラン評価・見直しが行われており、課題の検討をされています。時には法人内のリハ職から運動機能や栄養士からの栄養面での意見も聞かれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の中で変わった事や気になることがあったらタブレットに記録を残すようにしている。必要な情報が一目で解るようになっており情報の共有が速やかに行われる。	タブレット導入されたことにより体温・血圧の変動も一目で分かるようになり、記録に時間の短縮ができ、情報共有もしやすくなりました。気になる事や変化があればタブレットに残されています。今後ケア記録ソフトも導入予定です。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の方の状態に合わせて、その方に合ったサービスが提供出来るようにしている。家族の要望で病院への送迎が難しい所などは当施設で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	友人が来たいと言われたら面会に来て頂いたり、今までの関係が途切れないうち努めている。地域資源の把握に努めているが、コロナの影響もあり実施できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族希望のかかりつけ医と連携して本人を支えている。体調の変化に合わせて、その都度相談している。	利用者・家族等が希望するかかりつけ医として頂いています。協力医は往診がありますが、往診の無いかかりつけ医を選択される場合には、家族による受診を基本としておられます。歯科医も個々で受診されています。家族と受診される場合には本人の状態を伝え、受診後には話を聞かれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化で気になる点があったら看護師に報告、相談し指示や判断をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護サマリーを病院に提出し、退院前にはカンファレンスを開いて頂いたりと情報提供して頂き、退院後のケアに繋げている。	入院時には地域連携室と連絡を取り、ソーシャルワーカーと相談しながら、早期退院を目指しておられます。入院時には看護サマリーを病院に提出され、退院前にはカンファレンスがあり、退院後の生活の注意点等伝えて頂いています。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医が考えた方がいいと言われた段階からご家族の思いを聞くようにしていた。思いは変わるかもしれないが、考える機会は作っていた。	契約時に終末期の対応について説明が行われ同意も得られています。本人の体調変化等、重度化された場合には、家族に対して、ホームでできること、できないことを理解して頂き、かかりつけ医からの説明頂き、話し合いを行い最終的な方針が決定されます。看取り対応も行っておられます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で行っている。事故報告書やヒヤリハット報告書などユニット会議でも話し合い事故防止に繋げている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練や、消火訓練、災害時避難訓練も行っている。	年2回の避難訓練が行われており、内1回は消防署も来られる総合訓練が行われています。連絡する法人4施設全体の連絡・協力体制が構築され、災害時発生時のホーム職員の連絡網も作成され、備蓄も用意しておられます。BCP(事業継続計画)は今年度末に完成するよう策定中です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユニット会議で定期的に挙げ言葉使いには気をつけている。トイレ誘導時、入浴時など配慮した声掛けを常に意識している。	トイレや入浴時には業務マニュアルに沿った対応が行われており、配慮した言葉掛けができるよう意識されています。ユニット会議でも定期的に言葉遣いについて話し合われており、親しくなると馴れ馴れしい言葉遣いになる場面があるため、利用者の尊厳が保持できるよう職員同士気を付けておられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方には決めてもらえる。声掛けをしたり難しい方には選択肢を設け、選びやすくしている。個々の意向や自己決定出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースで過ごしてもらえよう、喫茶の時間を少しずらしたりしている。個々の思いやペースを尊重し支援するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昔から使用している物は継続している。(カチューシャや時計など)季節毎の衣替えや訪問理容などを利用したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事づくりをするようにしている。食事作りでなくても、お菓子作りを一緒にしたり、干し大根、干し柿などしてこられたことをしている。	メインのメニューだけ隣接する特養から提供されますが、その他についてはホーム調理しておられます。個々の能力に応じてテーブル拭き、食器洗い、食事作りの手伝いをして頂いております。切干大根、干し柿作りや手作りおやつは利用者みなさん作っておられます。畑もあり、収穫された季節の野菜を取り入れた献立が提供されたり、行事食もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は体重や血液検査の結果を見ながら決めている。水分量を飲んでおられるか見ながらしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアはしている。個々に合ったブラシやモアブラシ等使用し、夜間帯には義歯の方の洗浄を行っている。	食前のうがいや食後に口腔ケアは行われています。個々に応じて、声掛け、歯磨きの介助が行われています。義歯は夜間に洗浄液に入れ清潔保持がされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態に合わせて誘導時間を変えたり、パットの種類を変えたりしている。	最期までトイレで排泄して頂けるようケアされています。タブレットに記録を残し、個々の排泄パターンを把握され、誘導や声掛け、介助などの対応が行われています。夜間失敗がないように定時にトイレ誘導される利用者もあります。全居室にトイレ付きとなっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖を利用したり、牛乳を飲んでもらったりしている。服薬等で調整もしたり、トイレに座って頂く等排泄が出来る状況の機会をもち便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴室の温度管理や福祉用具の活用し安全にも配慮している。夜間入浴がいい方には夜入浴して頂いている。	入浴は基本週2回は入って頂けるようにしております。入浴時間も利用者の希望に合わせて対応されます。夜間に入りたいと希望される方には夕食後入られる対応も行われています。季節を感じて頂けるような菖蒲湯等も行っておられます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活リズム把握して(今までの生活習慣など)休んで頂いている。リビングのソファで休息される方もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変更があるときなどはタブレットに記録を残し各自目を通すようにしている。	過剰摂取、誤薬がないようにダブルチェックが行われています。薬の内容等に変更があった場合にはタブレットに入力され情報共有を行い、状態変化に注意されています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことが披露できる機会を日々の中で設けている。楽しみ事はコロナ禍で積極的に出かけることはできず、個々に出来る事や楽しみ事、気分転換できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍や職員体制の関係もあり、職員と戸外に出かけることは難しい。家族の方と出かけられる方は中にはおられる。	コロナ5類に伴い、そろそろ買物と一緒に出かけられる予定です。お天気のいい日にはホームの周りを散歩されたり、畑に行かれる方もあります。家族と外出される方はあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理出来ている方はおられるがコロナ禍で買い物に出ることも出来ず、使用する機会がない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が書きたいという方には書いて頂いたり、家族から手紙が来たら返事を書くように促したりしている。年賀状、暑中見舞い家族あてに書いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁画に季節の物を飾るようにしている。掃除も丁寧に行うようにしている。温度管理にも気をつけ快適に過ごして頂けるよう努めている。	換気にも気を付け、温度管理も行われています。過度な装飾はなく、生活の場に相応しい季節感のある装飾が行われています。最近ではYouTubeの動画配信される中から好みの物も鑑賞できるよう対応されています。ソファでのんびりと過ごされる方もあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにおいて好みに過ごせるようにしている。昼食後はソファでゆっくり過ごせる方もあり。テーブル席では気の合った利用者同士で過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族で使用していた物を持ってきてても良い事を伝えている。ご家族が花を持ってこられたり、ぬいぐるみを持ってこられたりしている。居室には家族の写真やメッセージカードなども飾っている。	使い慣れた物を持って来て頂かれています。動きやすい動線になるようベッドの位置やエアコンの風向きも調整されています。利用者が自分の部屋として過ごしやすいよう見守りながら、生活の支援をされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守るように努めている。声掛けもその方に合った声掛けをしている。		